

Zoom 木の日研修「安全研修（座学編）」

【開催日時】2020年9月3日（木）19:00～20:30
 【開催場所】リモート（Zoom）
 【主催】森林インストラクター東京会（FIT30 みわの会）
 【講師】入江 克昌氏（FIT 安全部会長）
 【参加人数】37名（内訳 FIT：37名）
 【報告者名】30期 みわの会 橋本 好晴
 【報告写真枚数】6枚



【一文紹介】

FIT 初の Zoom（有料版）を利用し「野外活動での安全講習」座学編

① 講師：入江 克昌氏

【公開記事】

1. CONE 保険申請からみた FIT の活動状況

- CONE 保険申請人数（イベント参加者）は 2017 年度 4,273 人、2018 年度 4,288 人と安定推移していたが、2019 年度は、コロナの影響で 3 月にイベントの中止が相次ぎ、通年で 3,801 人に減少。
- 2020 年度に入り FIT 活動がほぼ停止したことから 4 月、5 月は申請ゼロ、6 月は 8 件、86 人、7 月は 6 件、59 人、8 月は 6 件、103 人に止まる。WITH コロナ時代の FIT 活動のあり方を検討する必要がある。

2. FIT 内の最近の事故と事故への対応・防止策

○最近の事故

事例として 10 例の具体的内容を共有化。

- ・蜂刺され、伐採中の倒木による骨折等もあるが、最も多いのは転倒・転落事故（7 例）。
- ・転倒・転落事故への対応として、まずは下見の励行等により危険個所の迂回・回避することが有効（場地的問題への対処）。
- ・技術的・体力的・装備的問題への対処としては、チラシ郵送、直接電話等により必要事項を参加者に事前に確実に伝えることが大切（マス広告では内容を簡略化される可能性あり）。
- ・これからの季節、特にスズメバチには要注意。黒い服装を避け、静かに逃げる。刺された場合、ショック症状の有無を観察する。応急措置としてのポイズンリムーバーには傷口を広げる可能性があることに注意。

《その他参加者による蜂の体験談》

- ①驚いて手で払うと刺される。体に止まっても 3 分ジツと待てば飛んでいく。
- ②ポイズンリムーバーの利用は傷口を広げる。赤十字社でも使用推奨せず。冷水で洗うことが有効。刺されたら 30 分は様子（ショック症状）をみる。
- ③初め 3 匹だったのが 5 匹、10 匹と増え、カチカチという音も聞こえたので現場から直ちに撤退したら刺されずに済んだ。とにかく早めの行動が有効。

3. CONE 保険について

○CONE 保険の仕組み、対象活動、FIT 内手続き等について説明がなされた。

- ・CONE 保険はボランティアの野外活動に関わる総合保険。「ボランティア」の定義は書類には明記されていないが、保険代理店によれば、弁当代と交通費程度は実費相当として報酬とはみなされない。
- ・CONE 保険の対象活動が限定されること（あくまで一般の人が行う活動・体験であり林業体験はダメ）、学校行事の場合、傷害保険が対象外となること（学校側の保険に入れてもらう）に留意。2019 年から「熱中症」も保険の対象に。
- ・保険申請の際は「誰が参加するか」が大事。参加人数が同じでも参加者に変更がある場合は必ず氏名・年齢等を通知する。

2-3 FIT 内の最近の事故

年月日	2018.7.5	2018.9.16	2018.10.17
活動名	こここハイキング	山のお散歩くらぶ	ふれあい樹木ウォッチング
場所	川島山	小仏城山から相模湖への下山中	高尾観音山
対象者	50代女性	60代女性	70代女性
現象	土のゆるい下りの山道で、足を止めた際に右足裏踏んだとき、右足が大きな石を踏み滑って、左足裏も石を滑り落ちた。	斜面でバランスを崩して、右足が滑り左足を踏んでケガをした。	立ち止まった状態から、進行方向へ向きをかえたと、足を滑らせて転倒する。
症状	左足裏の裏を強打。痛みや腫れは軽微なし。	左足のケルブンを骨折	当日は我慢したが、腫れが引かずレントゲンで骨折と判明
推定原因	足を踏み出す時に足元に注意を怠ったためと推定される。	滑りやすい斜面での不注意	滑ってバランスを崩し転倒し、骨折に繋がった
対策例	特に足元に注意が必要である。転んだ時の手のつき方も注意する必要がある。	滑りやすい斜面の時にきめ細やかな注意をして見守ることが大事	滑りやすい斜面の時にきめ細やかな注意をして見守ることが大事。通常、転倒は立ち止まってと注意しているが、今回のように立ち止まった状態から動き出す時にも注意すること

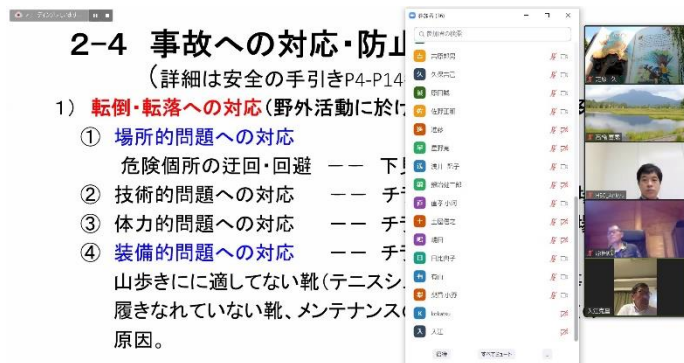
②Zoom 研修中

2-4 事故への対応・防止

（詳細は安全の手引きP4-P14）

- 1) 転倒・転落への対応（野外活動に於ける）
 - ① 場地的問題への対応
危険個所の迂回・回避
 - ② 技術的問題への対応
 - ③ 体力的問題への対応
 - ④ 装備的問題への対応
山歩きににに適してない靴（テニスシューズ）履き慣れていない靴、メンテナンス原因。

③Zoom 参加者状態



4. 安全確保について

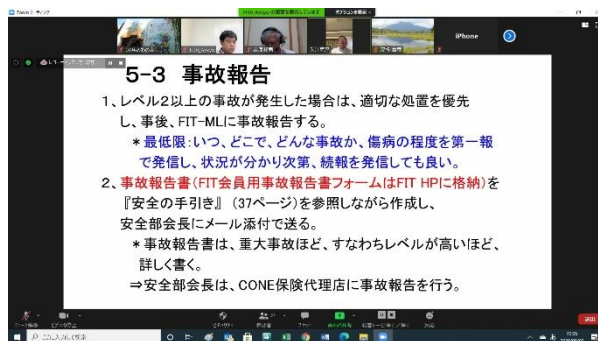
○安全確保のための心得として、参加者の行動シミュレーションやリスク算出、事故発生時の対処方法をスタッフで予め共有化することのほか、「適度な緊張感」「基本に忠実」「安全第一」等、行動の基本となるキーワードが提示された。

○救急法は身につけておくべき。①東京防災救急協会の「上級救命講習」、②赤十字社の「救急法基礎講習」＋「救急法養成講座」の受講を推奨。

5. 事故発生時の対応について

○事故発生時の対応について FIT 内の報告手続きも含めて説明がなされた。

- ・事故はレベル0（ヒヤリはっど）⇒レベル1（軽微な事故）⇒レベル2（通常の事故）⇒レベル3（重大事故）に大別。
- ・レベル2以上の場合には FIT-ML に第一報として報告を行い、安全部会長に事故報告書をメール送付（保険代理店には安全部会長が事故報告実施）。



④Zoom 参加者状況

【質疑応答】

○説明終了後、障害保険の手術保険金(10万～30万)の支給基準、ポイズンリムーバーの有効性等について質疑応答あり。

○質疑応答の中で、ポイズンリムーバーは、1分程度かけてゆっくり引けば傷口が広がることはないとの経験談が寄せられ、携帯しておくべきとの方向に（使用方法のリマインドは必要）。

○また流水を使った消毒等のためにペットボトルのフタに穴を開けて利用するアイデアも紹介された。

・FIT初となるリモート研修でしたが、何とか開催迄こぎつけられたのは、Zoomを活用した会議設定・運営、参加方法に関わる事前講習等において、研修部会長の高橋様はじめ、関係各位のご協力があったことだと思います。皆様、大変お世話になりました。

2-4 事故への対応・防止策

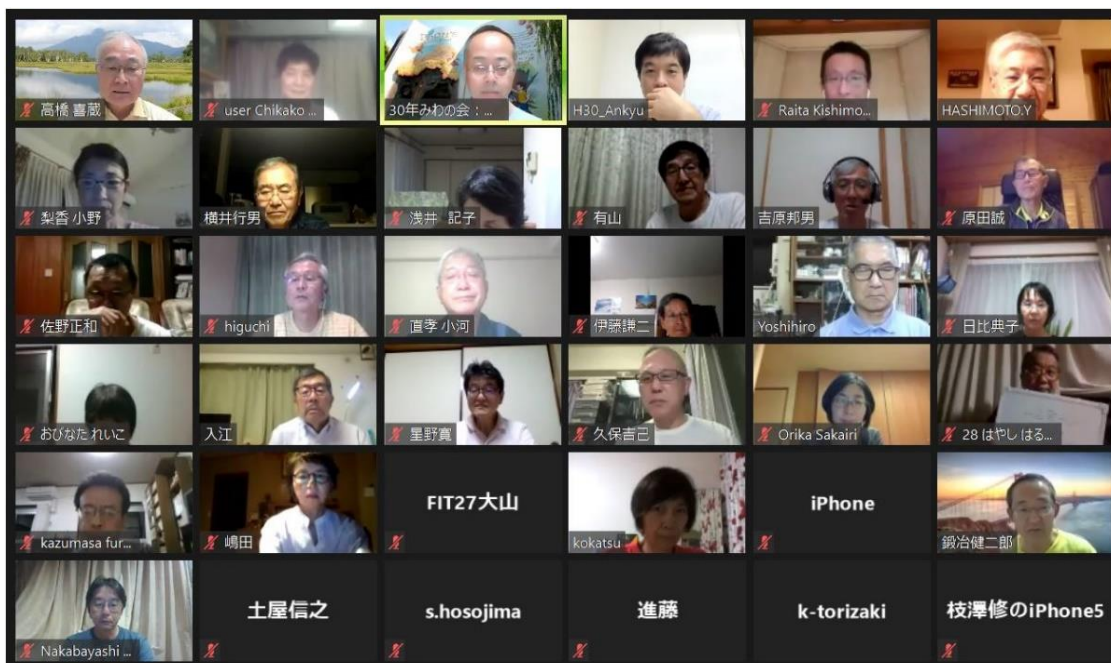
- 2) 体調急変への対応 --- 下見/参加者情報/現場
- 3) 天候急変への対応 --- 下見/現場
- 4) 道迷いへの対応 --- 下見/現場
- 5) 危険動物への対応
スズメバチ --- 下見/現場(含むハチノック持参)
- 6) 危険植物への対応
ウルシ類 --- 下見/現場



⑤Zoom 参加者状況

・研修内容も、具体的事例を交えて分かり易いと参加者の皆様から好評でした。講師をお引き受け頂いた安全部会長の入江様、副部会長の吉原様、本当に有難うございました。

・今年度「木の目研修」を担当する FIT みわの会として、今回の経験を次回以降の研修開催に活かして参ります。



⑥研修会参加者 記念写真